

自然史研究

VOL. 4, No. 6

28-II-2023

大阪市立自然史博物館

SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History

大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 — 2016～2020年の調査結果

大阪湾海岸生物研究会*

Rocky shore macrobiota of southeastern Osaka Bay:
Results of surveys carried out in the years 2016–2020

Association for the Research of Littoral Organisms in Osaka Bay*

Abstract: A series of floral and faunal surveys of intertidal zone along the rocky coast of the southeastern part of Osaka Bay, eastern extremity of the Inland Sea of Japan, was carried out at five stations during the years 2016–2020. One hundred and fifty-five species/species groups of seaweeds, 1 species of sea grass, and 579 species/species groups of animals were recorded. These results are tabulated and compared with those of preceding surveys at the same locality carried out in the same way.

抄録：2016年から2020年にかけて、大阪湾南東部の5ヶ所の岩礁海岸において潮間帯生物相調査を実施した。その結果、155種・種群の海藻、1種の花菱草、及び579種・種群の動物が記録された。出現種を報告するとともに、同様の方法でこの海域で行った前回の調査結果と比較する。

Key words: Rocky shore macrobiota; intertidal zone; Osaka Bay; the Inland Sea of Japan.

大阪湾海岸生物研究会は、1980年に大阪府南部から和歌山市北部に至る大阪湾南東部の岩礁海岸の潮間帯生物相についての継続的な調査を開始した。1980年には8ヶ所を調査し、海藻105種・動物232種を記録した（大阪湾海岸生物研究会、1981）。その後、1983年までは7ヶ所、2013年までは6ヶ所、2014年以降は5ヶ所を定点とし、多数の観察者による目視調査を続け、5年毎にその結果を公表している（大阪湾海岸生物研究会、1986、1993、1996、2002、2007、2012、2018）。本報では、これらに続く2016年から2020年までの調査結果を報告する。

調査地および調査方法

調査定点は図1に示した5ヶ所である。これらはいず

れも大阪湾の湾口に位置する岩礁性の露出海岸で、自然の地形が比較的良く保たれている。

定点のうち、長崎海岸は毎年1回、他の地点は2～3年に1回の割合で調査を実施するように計画した。調査は大潮の時期を選び、最干潮の前後2時間程度、観察者各自が目視によって潮間帯及び潮上帯に生息する生物をその場で同定・記録し、それらの結果を持ち寄ってリストにまとめるという方法で実施した。一部は標本を持ち帰り同定したものもあるが、現場での同定が難しいもの（海綿類、ヒドロ虫類、コケムシ類、多毛類、小型甲殻類、及び群体性ホヤ類など）は十分に記録されていない。

実際に調査した地点・回数と、各回の参加者数、干潮時潮位を表1に示す。長崎は5回、田倉崎と豊国崎は

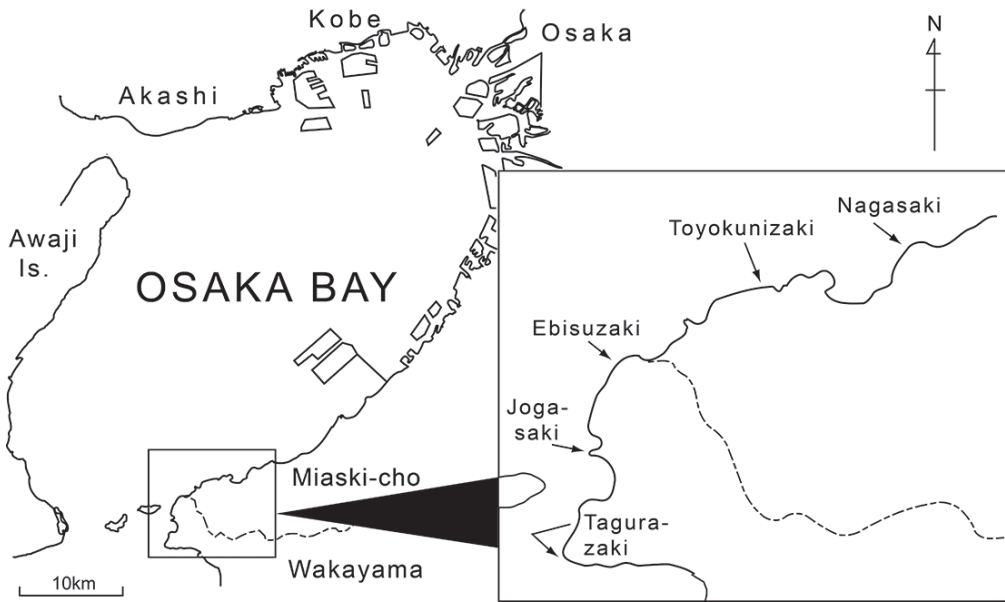


Fig.1: Map of the five stations fixed for monitoring of intertidal macrobiota. 図1：定点位置図。

各4回、城ヶ崎は3回、戎崎は2回、合計18回の調査となった。調査回によっては大阪府高等学校生物教育研究会の教員と高校生も参加しているが、この人数は把握できていないため、表1には正確に反映されていない。また、2018年の豊国崎の調査では参加者名簿の作成ができなかったため人数は不明である。

2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4～5月に予定していた2回の調査はとりやめることになった。その代わりに、長崎海岸については本会の世話人及び大阪市立自然史博物館主催の磯観察会の講師経験者に声をかけ、4～5月の適当な日に個別に現地調査を行い、その確認種を統合して当年の記録とすることにした。この個別調査の参加者は以下の通りである(カッコ内は調査日)：有山啓之(5月8日)、石田 惣(4月24日、5月11日、5月24日)、大谷道夫(5月9日)、松井彰子(5月9日)、山下隆司(5月23日)、山西良平(5月9日)。

最近分類学的知見が加えられたものに対する記録の取扱いは以下の通りである。

イソテッポウエビ類：従来調査地点で「イソテッポウエビ“*Alpheus lobidens*”」と同定してきたもの(縞模様のあるテッポウエビ属)は、有山(2017)によりオハリコテッポウエビ*A. sp. aff. heeia*とテッポウエビ属の一種*A. sp. (not A. lobidens)*の少なくとも2種を含むことが明らかにされた。また、調査地点にはこの2種以外のテッポウエビ属も生息しているとみられる。従って本調査期間の記録では、縞模様のないテッポウエビ属(縞模様の有無を確認しなかった場合を含

む)を「テッポウエビ属*A. sp.*」、現地で縞模様を確認したテッポウエビ属を「テッポウエビ属(縞模様)*A. sp. aff. heeia* or *A. sp.*」、室内検鏡によりオハリコテッポウエビと同定できたものを「オハリコテッポウエビ*A. sp. aff. heeia*」として記録した。

マナマコ類：マナマコには体色によって3つの型(赤色、青緑色、黒色)が知られており、赤色型はアカナマコ*Apostichopus japonicus*、青緑色型と黒色型はマナマコ*A. armata*とされた(倉持・長沼, 2010; Woo et al., 2017)。本調査では2020年から両者を区別するようにした。2019年以前の記録では3型を区別せず「マナマコ類*A. spp.*」とした。

イワムシ：従来イワムシとしてきたものには5種の隠蔽種の存在が報告されている(Abe et al., 2019)。本調査方法では5種の識別が困難なため、後述のリスト(表3)では「イワムシ種群 *Marphysa iwamushi* species group」として表記している。

タロクヒラフジツボ：タロクヒラフジツボ *Tetraclitella multicostata* はムツアナヒラフジツボ *T. chinensis* のシノニムとされた(Kim et al., 2019)。2015年以前の報告ではタロクヒラフジツボがリストアップされていたが、2016年以降の本報告ではムツアナヒラフジツボに統一している。

結果

総計で735種(この数には種レベル未同定のものや種群を含む。以下同じ)の藻類、植物、動物が記録された。藻類は155種(藍藻1, 緑藻19, 褐藻45, 紅藻

Table1: Date, number of investigators, and tide level at low water.
表1: 野外調査の実施日, 調査員数及び干潮時の潮位.

Station	Date	Number of investigators	Tide level at low water (DL cm)
Tagurazaki 田倉崎	2016/Apr/9	29	-1
	2017/Apr/30	30	8
	2018/Jun/17	38	10
	2020/Jun/7	33	1
Jogasaki 城ヶ崎	2016/May/8	23	-7
	2017/Jun/11	24	23
	2019/Jun/16	28	22
Ebisuzaki 戎崎	2018/Apr/15	23	31
	2019/Apr/20	34	9
Toyokunizaki 豊国崎	2016/Apr/24	18	21
	2018/Jun/30	no data	23
	2019/Apr/7	38	18
	2020/Jun/21	31	12
Nagasaki 長崎	2016/May/21	21	26
	2017/May/13	19	20
	2018/Apr/30	33	18
	2019/May/18	33	15
	2020/Apr-May*	6	—

*: Combination of individual investigations

90) が記録された。維管束植物はアマモ1種のみである。これら植物の出現種数を調査地別に比較すると、田倉崎106, 戎崎103, 豊国崎97, 城ヶ崎96, 長崎82の順となった(表2)。

藻類の記録には打ち上げられた藻体に基づくものがある。それらは表2で「DR」としている。5年間の調査で記録が打ち上げのみによるものはミナミアオサ, ツルモ, トゲモク, マメタワラ, フサカニノテ, フサノリが該当する。

動物は579種が記録された。動物門による内訳は海綿28, 刺胞13, 扁形6, 紐形6, 腕足1, 苔虫22, 軟体231, 星口4, 環形44, 節足108, 半索1, 棘皮28, 脊索87(ホヤ綱40, 魚類47)であった。出現種数を調査地別に比較すると、田倉崎373, 長崎346, 豊国崎341, 城ヶ崎311, 戎崎254の順となった(表3)。

2011~2015年の出現種との比較

今回の調査全体を通じて生育・生息が確認された種を、2011~2015年の同海域の調査(以下「前回の調査」という)の結果(大阪湾海岸生物研究会, 2018)と比較する。

総出現種数は前回の調査が612種, 今回は735種で123種増加した。前回の調査と共通する種は522種である。前回の調査で記録されていなかった種は藻類31種, 動物176種であり, そのうち藻類14種, 動物123種は1980年以降の定点調査で初めて記録された種である(表2, 表3)。これら新記録種の増加は, 海綿類, コケムシ類, 小型のウミウシ類, ホヤ類などいくつか

の分類群で同定精度が向上したり, 探索努力が増えたりしたことによる寄与がある程度を占めると考えられる。新記録種のうち, 例えばカゴメノリやチビホネテダニア, ドングリカイメンフジツボなどは田倉崎で定着していることが伺える。また, イソコバサミは城ヶ崎と田倉崎で2019年以降確認されるようになった。

一方, 前回の調査で記録されているながら, 今回記録されなかった種は藻類5種, 動物69種の計74種である(表4)。改めて過去の記録を精査した結果誤同定の可能性があるものはこの表に含めていない。これらはもともと出現頻度の低いものが多くを占めているが, ケハダカイメンフジツボなどは前回の調査以前は比較的定期的に記録されており, 今後の動態が注目される。

なお, 表2~表4の分類群の配列は主として下記に拠った。個々の学名はこれら以外にも参照したものがあがるが, ここでは割愛する。

福田 宏. 2021. Biology and Evolution of the Molluscaで提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. *Molluscan Diversity* 6(2):89-180.

今原幸光(編著). 2016. 新装改訂フィールド版写真でわかる磯の生き物図鑑. トンボ出版, 大阪.

中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 東京.

日本付着生物学会(編). 2017. 新・付着生物研究法 主要な付着生物の種類査定. 恒星社厚生閣, 東京.

西村三郎(編著). 1992. 原色検索日本海岸動物図鑑 [I]. 保育社, 大阪.

西村三郎(編著). 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑 [II]. 保育社, 大阪.

奥谷喬司(編著) 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 東海大学出版部, 平塚.

吉田忠夫・鈴木雅大・吉永一男. 2015. 日本産海藻目録 (2015年改訂版). 藻類 63:129-189.

文献

Abe, H., Tanaka, M., Taru, M., Abe, S. & Nishigaki, A. 2019. Molecular evidence for the existence of five cryptic species within the Japanese species of *Marphysa* (Annelida: Eunicidae) known as “Iwa-mushi”. *Plankton and Benthos Research* 14(4):303-314.

有山啓之. 2017. 大阪湾南東部岩礁域で採集された“イソテッポウエビ”について. 大阪市立自然史博物館研究報告 71:1-9.

Kim, H. K., Chan, B. K. K., Xu, G. & Kim, W. 2019. The formation of lunule-like hollows in shells of the acorn barnacle *Tetraclitella chinensis* (Nilsson-Cantell, 1921), with a reappraisal

- of the taxonomic status of *T. multcostata* (Nilsson-Cantell, 1930) (Cirripedia: Tetraclitidae). *Journal of Crustacean Biology* 39(2):136-149.
- 倉持卓司・長沼 毅. 2010. 相模湾産マナマコ属の分類学的再検討. *生物圏科学* 49:49-54.
- 大阪湾海岸生物研究会. 1981. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相とその特徴-1980年の調査結果-. *大阪市立自然史博物館研究報告* (35):55-72.
- 大阪湾海岸生物研究会. 1986. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1981~1985年の調査結果-. *自然史研究* 2(2):35-49.
- 大阪湾海岸生物研究会. 1993. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1986~1990年の調査結果-. *自然史研究* 2(9):129-141.
- 大阪湾海岸生物研究会. 1996. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1991~1995年の調査結果-. *自然史研究* 2(12):167-179.
- 大阪湾海岸生物研究会. 2002. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-1996~2000年の調査結果-. *自然史研究* 3(1):1-14.
- 大阪湾海岸生物研究会. 2007. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2001~2005年の調査結果-. *自然史研究* 3(6):93-106.
- 大阪湾海岸生物研究会. 2012. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2006~2010年の調査結果-. *自然史研究* 3(13):211-224.
- 大阪湾海岸生物研究会. 2018. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相-2011~2015年の調査結果-. *自然史研究* 4(2):17-40.
- Woo, S. P., Ogawa, A., Tan, S. H., Yasin Z., Kajihara, H. & Fujita, T. 2017. A taxonomic revision of the genus *Apostichopus* (Holothuroidea: Stichopodidae) from Japan. *Zootaxa* 4350:121-135.
- 中西友紀夫, 中西ルミ子, 中村日桜里, 鍋島靖信*, 西澤まり, 野寺澄香, 野々上良甫, 萩野 哲, 畑中義治, 波戸岡清峰*, 花井 孝, 花岡皆子*, 濱口春代, 浜田みゆき, 浜田園子, 濱野 彩, 林 康平, 半田裕子, 平化 満, 平野健一郎, 廣井裕子, 福井康雄, 藤井真理, 藤原任智, 松井彰子*, 松本 裕, 丸目帆夏, 南川郁夫, 三宅規子, 向井 稜, 村上智加子, 室井義弘, 矢田部典子, 山下隆司, 山下とみ子, 山中智之, 山西良平*, 山本英男, 山本大暉, 山本寛大, 吉松ケイ子, 李 広緑, 李 蘭, 和田紀代子, 和田太一, 渡邊淳一, 渡邊岳志, 渡部哲也*

調査参加者 (104名・団体, *は執筆者)

秋山 諭, 秋山 湊, 有山啓之*, 石井久夫, 石川佳史, 石崎英男, 石崎英美, 石田 惣*, 石野, 稲葉, 今原幸光, 入江正己, 上田一徳, 大古場 正, 大阪府高等学校生物教育研究会, 大谷道夫*, 岡 漕人, 岡谷崇宏, 岡 美保, 小川, 覚野信行, 笠井 環, 柏尾 翔*, 加戸栄子, 加戸隆介, 金井真知子, 神里三恵子, 亀田貴文, 唐沢恒夫, 川崎智郎, 河添純子, 川端 青, 木下翔太郎, 木邑聡美, 黒木陽一, 小島和江, 坂尾優希, 里井 敬, 佐藤明子, 佐藤大雅, 嶋村吉晃, 染田 遥, 高橋杏奈, 竹之内孝一, 田代 貢, 辰村 絢, 田中春美, 谷利薫彦, 谷利梨沙, 田野中里佳, 堤 容子, 富岡森理, 友藤将己, 内藤 淳, 長江真紀子, 中西 博,

Species	Not recorded during 2011-2015	Newly recorded since 1980	Tagurazaki 田倉崎			Jogasaki 城ヶ崎			Ebisuzaki 戎崎			Toyokumizaki 豊国崎					Nagasaki 長崎					Total no. of recording					
			2016			2017			2018			2016			2018			2019			2017			2016			
			Jun	Jul	Aug	Jun	Jul	Aug	Apr	May	Jun	Jun	Jul	Aug	Apr	May	Jun	Apr	May	Jun	Apr		May	Jun	Apr	May	Jun
<i>Ditrema temminckii pacificum</i>	■	■																									2
<i>Chromis notata</i>																											1
<i>Microcanthus strigatus</i>																											2
<i>Girella punctata</i>																											12
<i>Pseudolabrus sieboldi</i>																											5
<i>Pseudolabrus eoelthinus</i>	■	■																									1
<i>Parajulis poecileptera</i>																											3
<i>Haltichoeres tenuispinis</i>																											8
<i>Hexagrammos agrammus</i>																											13
<i>Hexagrammos otakii</i>																											2
<i>Ocyneutes maschalis</i>																											8
<i>Furcina osimae</i>																											10
<i>Furcina ishikawae</i>																											3
<i>Pseudoblennius contoidea</i>																											1
<i>Pseudoblennius percoides</i>																											7
<i>Zoarchias glaber</i>																											3
<i>Ernogrammus hexagrammus</i>																											1
<i>Dicyposoma temminckii</i>																											14
<i>Dicyposoma rubrimaculatum</i>																											7
<i>Zoarchias major</i>																											6
<i>Pholis crassispina</i>																											5
<i>Enneapterygius theostomus</i>																											16
<i>Neoclinus bryope</i>																											6
<i>Parablennius yatabei</i>																											14
<i>Entomacrodus stellifer stellifer</i>																											9
<i>Omicranthus punctatus</i>																											2
<i>Omicranthus elegans</i>																											15
<i>Aspasmichthys ciconiae</i>																											8
<i>Luciogobius grandis</i>	■																										2
<i>Luciogobius marredii</i>																											14
<i>Chaenogobius annularis</i>																											14
<i>Chaenogobius gilulosus</i>																											16
<i>Pterogobius elapoides</i>																											1
<i>Pterogobius zonoleucus</i>																											2
<i>Tridentiger trigonocephalus</i>	■	■																									3
<i>Takifugu pardalis</i>																											1
<i>Takifugu alboplumbens</i>																											13

Total no. of recorded species 176 123 219 218 216 200 180 221 212 208 171 220 206 213 130 163 196 210 220 168

Total no. of recorded species at each station 373 311 254 341 346

Table 4: Species which recorded during 2011-2015 term but not recorded during the present term.

表4: 前回の調査(2011~2015年)で記録され、今回の調査では記録されなかった種.

CHLOROPHYTA 緑色植物門			
<i>Capsosiphon fuvescens</i>	カブサアオノリ		<i>Parthenina affectuosa</i>
<i>Ullothrix flacca</i>	ヒビミドロ		<i>Babella mariellaeformis</i>
OCHROPHYTA 黄藻植物門			<i>Placida babai</i>
<i>Ecklonia cava</i> subsp. <i>kurome</i>	クロメ		<i>Laemodonta exaratooides</i>
RHODOPHYTA 紅藻植物門			<i>Acar plicata</i>
<i>Grateloupia angusta</i>	キントキ		<i>Ostrea circumpecta</i>
<i>Grateloupia articulata</i>	フシキントキ		<i>Epicodakia delicatula</i>
PORIFERA 海綿動物門			<i>Kellia</i> sp.
<i>Sycon misakiensis</i>	ミサキケツボカイメン		ANNELIDA 環形動物門
<i>Vosmaeropsis maculata</i>	マダラボスメールカイメン		<i>Amblyosyllis speciosa</i>
<i>Tethya aurantium</i>	ユズダマカイメン		<i>Trypanosyllis taeniaformis</i>
<i>Suberites japonicas</i>	ヤマトトメバリカイメン		<i>Perinereis euiini</i>
<i>Callyspongia sphaericuslobata</i>	マルイボカリナ		<i>Nereis multignatha</i>
<i>Mycale macginitiei</i>	ヒラミカールカイメン		<i>Lepidonotus tenuisetosus</i>
<i>Iotrochota baculifera</i>	フジイロカイメン		<i>Thelepus</i> sp.
<i>Hymedesmia</i> sp.	タイライカイメン属		ARTHROPODA 節足動物門
CNIDARIA 刺胞動物門			<i>Eucaستا dofleini</i>
<i>Hydractinia</i> sp.	ウミヒドラ属		<i>Balanus rostratus</i>
<i>Melithaea japonica</i>	イソバナ		<i>Aoroides semicurvatus</i>
<i>Rhizopammia minuta mutsuensis</i>	ムツサンゴ		<i>Nipponorchestia curvatus</i>
PLATYHELMINTHES 扁形動物門			<i>Ptilohyale barbicoenis</i>
<i>Holoplana ornata</i>	モヨウマルヒラムシ		<i>Armadilloniscus notoijimensis</i>
<i>Pseudoceros flavomarginatus</i> ?	クロネセツノヒラムシ?		<i>Alpheus bisincisus</i>
NEMERTEA 紐形動物門			<i>Heptacarpus futillirostris</i>
<i>Cerebratulus marginatus</i> ?	オロチヒモムシ?		<i>Pagurus nigrivittatus</i>
BRYOZOA 苔虫動物門			<i>Dromiidae</i> gen. sp.
<i>Escharoides</i> sp.	<i>Escharoides</i> 属		<i>Hymenosomatidae</i> gen. sp.
<i>Bugula neritina</i>	フサコケムシ		<i>Pyromaia tuberculata</i>
<i>Fenestrulina malusii</i>	キクメウスコケムシ		<i>Pseudomicippe nipponica</i> ?
<i>Phidoloporidae</i> gen. sp.	アミコケムシ科		<i>Tiarinia cornigera</i>
MOLLUSCA 軟体動物門			CHAETOGNATHA 毛顎動物門
<i>Astraliun haematragum</i>	ウラウズガイ		<i>Paraspadella gotoi</i>
<i>Litharium kurodai</i>	コウンボウキリオレ		ECHINODERMATA 棘皮動物門
<i>Bouchettriphora</i> cf. <i>otsuensis</i>	ホソアラルキリオレ		<i>Certanardoa semiregularis</i>
<i>Paludinellassimineata negashimae</i>	オオウスイロヘソカド		<i>Henricia</i> sp.
<i>Pygmaerota duplicata</i>	アラウズマキガイ		<i>Ophiactis savignyi</i>
<i>Parvioris astropectenicola</i>	トゲモミジヒトデヤドリニナ		<i>Phyrella fragilis</i>
<i>Heliacus enoshimensis</i>	ナワメグルマ		<i>Holothuria leucospilota</i>
<i>Platydoris</i> sp.	ネズミウミウシ		CHORDATA 脊索動物門
<i>Plocamopherus tilesii</i>	ヒカリウミウシ		<i>Halocynthia ritteri</i>
<i>Polycera</i> sp.	フジタウミウシ属		<i>Sebastes schlegelii</i>
<i>Okenia hiroi</i>	ヒロウミウシ		<i>Pteragogus aurigarius</i>
<i>Brachystomia planata</i>	クチキレモドキ		<i>Liparis punctulatus</i>
			<i>Priolepis borea</i>

